

授業改善等に関する報告書（2025年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2025 (後期) 美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|-------------|--------|--|
| 現代美術史入門 a | 山本 浩貴 | 入門と言うことで、内容を詰め込み過ぎて、ちょっと途中から駆け足になってしまった部分があった。そのため、ペースが早いと考える人の方が満足度が低くなっていた。教えたい内容は多いが、来年度は基礎的な項目に絞って進めようかと思う。 |
| 美学入門 a | 椎原 伸博 | 「一見難しそうな現代美術作品について、作品が作られた経緯などを説明してくださって、理解することができて、面白かったです。授業ありがとうございました。」 というコメントありがとうございます。また、「理解するのが少し難しかったけれど、昔の人はこう考えているんだということを知れてよかったです。哲学などは時には自分を救うと思うので大切にしようと思いました。」 というコメントも良かったです。一方、オンデマンドという授業形態から難しかったと思います。 「恐縮ですが、オンデマンドではなく対面授業での授業の方がより美学に探求心をもって取り組めたかなと感じました。」 というコメントもそれを著していると思いますが、2回の対面授業を行い、ワークショップ形式で行っていることを、今後は拡大することも考えるべきかと思いました。 オンデマンドの視聴は大変だったと思いますが、授業を辛抱強く受講していただきありがとうございました。 |
| 入門演習 | 串田 紀代美 | 「入門演習」の授業では、履修者のみなさんが非常に協力的で、よくがんばってくれたと思います。初年次に、14週間をかけてレポートの書き方を段階的に学べる大学は、それほど多くはありません。ましてや生成系AIを使って、執筆後のレポートの修正点を明確にし、さらにレベルアップする修正テクニックを2025年の段階で教えている大学となると、その数はかなり限られるでしょう。最新の技術を学び、これから卒業論文まで、みなさんは自信をもってレポートの課題に取り組むことができると思います。課題が多くて大変だったかもしれませんが、それを乗り越えて単位を取得したことを誇りとして、一生もののスキルを身につけたことをぜひ忘れないでください。みなさんのご協力のおかげで、90%を超える履修者のみなさんが、本授業に対し全体的に満足してくださったことが授業アンケートの数値で明らかになりました。一生懸命授業に出席し、課題をやり続けてくださったことにあらためて感謝いたします。残念ながら単位取得に至らなかった方も、がっかりする必要はありません。レポートは、結果よりもプロセスを重視することが重要です。その点をぜひ覚えておいてください。 みなさんがさらに文章力を磨いて、3年後に社会から必要とされる人材になって活躍なさることを信じています。半年間、ありがとうございました。 |
| 入門演習 | 串田 紀代美 | 「入門演習」の授業では、履修者のみなさんが非常に協力的で、よくがんばってくれたと思います。特に5限の授業は、みなさんにとって大変だったと思います。疲れているはずなのに、グループワークで発言したり、クラスノートにたくさんの意見を書いてくださったりと、大変積極的に発言していただき、非常に印象深いクラスでした。 初年次に、14週間をかけてレポートの書き方を段階的に学べる大学は、それほど多くはありません。ましてや生成系AIを使って、執筆後のレポートの修正点を明確にし、さらにレベルアップする修正テクニックを2025年の段階で教えている大学となると、その数はかなり限られるでしょう。最新の技術を学び、これから卒業論文まで、みなさんは自信をもってレポートに取り組むことができると思います。課題が多くて大変だったかもしれませんが、それを乗り越えて単位を取得したことを誇りとして、一生もののスキルを身につけたことをぜひ忘れないでください。みなさんのご協力のおかげで、90%をはるかに超える履修者のみなさんが、本授業に対し全体的に満足してくださったことが授業アンケートの数値で明らかになりました。一生懸命授業に出席し、課題をやり続けてくださったことにあらためて感謝いたします。残念ながら単位取得に至らなかった方も、がっかりする必要はありません。レポートは、結果よりもプロセスを重視することが重要です。その点をぜひ覚えておいて、これからも一緒に頑張りましょう。 みなさんがさらに文章力を磨いて、3年後に社会から必要とされる人材になって活躍なさることを信じています。半年間、ありがとうございました。 |
| 日本美術史入門 b | 馬淵 美帆 | 今年は学期末の授業内テストの平均点が高く、しっかり復習してくれた人が多かったと感じています。 入門bの授業は情報量も多く、大変に感じた方もいたことと思います。この授業の内容は、入門aと同様、今後美術史を学ぶ上での基礎となるので、資料を見返したり図書館の本で復習するなどを積極的に行っていただきたいと思います。 授業中は、この授業に限らず、自主的にメモを取ることを心掛けて下さい。 |
| 日本近代美術史入門 b | 児島 薫 | スライドを送る時間が早いという意見がありました。前期と同様に「参考」の画像はノートを取るよりも画像を見て話を聞いてほしいというものです。また前期よりはみなさんも慣れたであろうと少しスピードアップしていました。全員に適切におこなうのは難しいので、途中でも相談してください。 |

[2025 (後期) 美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|------------------------|--------|--|
| 仏教美術史入門 b 金曜配信 (渋谷) | 武笠 朗 | 今年度も約3分の1弱の回答。次年度はなるべく授業時間内に回答させるようにしたいと考える。今年度はオンデマンド授業であった。双方向性の確保は以前にも増して課題である。十分な時間を取ることがむずかしいのだが、小テストを通じての質問等への返しをさらに充実させたい。受講生諸君は、訊きたいことがあったら、manabaにどんどん書き込んで欲しい。みんながわからないことが何なのか、わかりたいと思います。むかさ |
| 西洋近代美術史入門 b | 齋藤 達也 | 試験は持ち込み可能なノートの分量が増えた分、よくできている人が多かった印象です。前期と後期を通じて、西洋近代美術史の大まかな知識は身についたと思います。これをベースにして次年度もがんばりましょう。 |
| 民俗芸能入門 b 木曜配信 (渋谷) | 串田 紀代美 | 半年間のオンデマンド授業、お疲れさまでした。前期開講の「民俗芸能入門 a」を履修した方は、両方合わせると約1年間この授業を履修して下さったことと思います。オンデマンド型授業は、どこでも視聴できる利点があると同時に自己管理が必要で、気を緩めると課題提出に遅れそうになったり、時には視聴することを忘れて、大変だった方もいらっしゃることも多いです。授業アンケート結果では、総合的に「満足した」「どちらかといえば満足した」と回答なさった方が8割以上を占めており、概ね授業は成功だったと理解しました。ただ一つ懸念があるのは、授業アンケートの提出率が非常に低かった点です。前期開講の「民俗芸能入門 a」は、今回の3倍近い方が提出してくださり、授業に対する感想を書いてくださったので、担当教員として大変励みになりました。授業アンケートは、授業を改善し、学生のみなさんが興味をもって参加できる授業にするための方法やヒントを得る重要な機会です。忙しいとは思いますが、必ずアンケートをご提出くださるようお願いいたします。今回、忙しい中で授業アンケートを提出して下さった方々には、大変感謝しています。半年間、お疲れさまでした。 |
| 日本美術史特講 d 木曜配信 (渋谷) | 馬淵 美帆 | オンデマンドの授業で受講しにくい点もあったかと思いますが、毎回の課題など、受講者の皆さんはとてもよく書いて下さっていたと感じます。オンデマンドの授業も、対面授業と同じ1回性のものとして、集中してノートを取りながら受講していただきたいと思っています。受講上の希望や質問をすぐに受けにくく、不満を感じた方もおられたことと思います。皆さんからいただいた回答を元に、今後のオンデマンド授業の方法を工夫していきます。 |
| 仏教美術史特講 d | 武笠 朗 | アンケート回答数が少なかったので(10人)、次回は授業時間内に必ず回答させるようにしなければならぬ。講義主体の科目なので、どうしても双方向性の確保が問題となる。授業内容の理解度を測るために、小テストの数を少し増やし、そのフィードバックに時間をかけるようにしたいと考えるが、なかなか時間をかけられないのが問題である。次年度はなんとかしたい。レポートのフィードバックができないので、こちらもmanaba経由でやるようにしたい。受講生諸君は、わからないことをそのままにしないで、質問だけでもmanaba等利用でこちらに届けて欲しい。むかさ |
| 西洋近代美術史特講 d | 齋藤 達也 | 持ち込み可能なノートの分量が増え、事前に問題を2問予告しておいたので、期末試験はよくできている人が多かった印象です。引き続きがんばりましょう。 |
| 現代美術史特講 d | 山本 浩貴 | 特講dは初年度で、どのくらいの難易度にするか悩んだ。おおむね理解できたと回答する学生が多かったが、数名は「難しい」と感じたようなので、もう少し基礎的な部分から始めることも検討したい。 |
| 民俗芸能特講 d | 串田 紀代美 | 「民俗芸能特講 d」の授業では、履修者のみなさんが本当によく頑張ったと思います。授業内でメモをとる習慣をつけ、主体的に学ぶ姿勢を心がけてくださった方が多く、こちらの質問の投げかけにも必ず反応していただき、授業をスムーズに進めることができました。みなさんのご協力に感謝しております。授業アンケートでは、総合的に「授業に満足した」「どちらかといえば万増した」と回答した方が94%にも及び、なおかつコメントをたくさん残していただき、大変感激しました。授業を教える側にとって、みなさん一人ひとりの声が大変役立ちます。あらためて授業アンケートのご協力に感謝いたします。大学生にとって、あまり身近ではない民俗芸能ですが、美術史や大衆文化との親和性が高く、かくれた魅力がまだまだ発見できる授業科目だと思います。「勉強」と思わず、好奇心のおもむくままに民俗芸能や民俗学の世界を楽しんでください。半年間、ありがとうございました。 |
| 美術と社会 d 水曜配信 (渋谷) | 山本 浩貴 | オンデマンドの授業で、フィードバックの仕方に苦労した。全体的な満足度は良かったが、一方で「自分に成績を付けるとしたら」という回答が、受講生のレポートの平均的な出来に比べて低いのが気になった。オンデマンドであっても、学生が自分の成長や出来を実感することができるような工夫を考えたい。本学にもオンデマンドを長くやっている教員もいるので、どのような工夫をしているかなど、伺ってみたいと思う。 |
| 日本美術史演習 b | 馬淵 美帆 | 授業アンケートに回答いただいた範囲では、受講者の方におおむね満足していただけたようでよかったです。専門家が書いた研究論文を批判的に読み込み、その内容や自分の意見を他の人に伝えることは、卒業論文の執筆時に必ず役立つ経験ですので、ぜひ次年度に活かしていただければと思います。 |

[2025 (後期) 美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|-------------|--------|---|
| 日本近代美術史演習 b | 児島 薫 | 今学期は、夏の異常な暑さ、インフルエンザの流行などのせいか、体調不良の方が続出して、発表スケジュールの変更への対応に追われて見学を十分に授業に取り込めなかったのがこちらの反省点でした。 |
| 仏教美術史演習 b | 武笠 朗 | 33名中わずかに6名の回答であった。今回は一応授業中に回答を促したが、残念ながら及ばず少なかった。次回は必ず授業時間内に回答させるようにしたい。研究発表中心の授業だが、その際学生諸君の意見感想を直接聞けないのは問題かと感じている。時間の都合上、コメントペーパーを利用しているのだが、次年度は人数が少ないので直接討論できるように工夫をしてみたいと考える。京都奈良方面への見学授業も、次年度は少人数なので、見学先等を変えたり、TAを含めての現地指導をもう少し充実させるなど工夫したい。 |
| 西洋近代美術史演習 b | 齋藤 達也 | 発表の仕方やレポートの書き方がある程度身につけることができたのではないかと思います。この調子で卒論の執筆に励んでください。 |
| 美学演習 b | 権原 伸博 | アンケートを提出してくれた学生さんたちの、理解度が高く、自己成長確認度も高かったです。基本的にグループワークと発表で、いままですんできたことが少なかった、美学の各論のテーマを良く学習してくれたと思います。今後は、美学ゼミ以外の卒論ゼミに配属される学生さんも多いですが、美学ゼミでの学修を活かして下さい。 |
| 民俗芸能演習 b | 串田 紀代美 | 今年度の「民俗芸能演習 b」は、授業を進めるにあたり履修者のみなさんの協力が不可欠でした。「民俗芸能」や「民俗学」で欠落していた「ジェンダー」という観点を新たに加えることは、私にとっては大きな挑戦でしたが、履修者のみなさんが積極的に意見を提示してくださり、グループで共有し、さらに新たな視点や考え方を発見していく姿を毎回見るにつけ、今では新しい授業にチャレンジしてよかったと実感しています。民俗芸能や民俗学だけでなく、日本社会にはジェンダー・ステレオタイプの考え方や見方が潜んでいます。それに対して、ただ闇雲に戦ったり抗ったりするのではなく、状況を改善するために何をどう改善するのか、そのために必要な行動は何かを考え、ジェンダーに関する知識や視点を持っているだけで、苦しくてつらい状況が緩和されます。社会で生き抜く知恵を今から身につけていただくために、この授業を計画しました。授業の中で、毎回みなさんから出される意見を聞き、その鋭い視点や独自の解釈に大変関心しました。今後社会に出たとき、自分自身で選みたい道が選択できるようになるために、ジェンダー学は必要です。ぜひ、そのことを覚えておいてください。授業アンケートでは、この授業に対し総合的に「満足した」「どちらかと言えば満足した」と回答した方がほぼ100%でしたが、それ以上に嬉しかったことは「意欲的に取り組む」、自分自身に高い成績を付けたいという方が90%を大幅に上回っていた点です。これからもご自身の意見を大切に、悔いのない人生の選択をなさってください。半年間、ありがとうございました。 |
| 卒論ゼミ b | 串田 紀代美 | 「卒論ゼミ b」の授業、お疲れさまでした。あっという間の1年間だったと思いますが、大学4年間の総まとめとして、みなさん一人ひとりが各自のテーマに取り組み、文献を調査し、アンケートやインタビュー調査に取り組み、分析し考察した事柄を論文をまとめ上げる姿に大変感銘を受けました。みなさんにとっての卒業論文は、目に見えない日頃の努力や悩みを可視化してくれるものです。卒論を見るたびに、ご自身の頑張りを褒めたたえ、次なるステップへの足掛かりにしてください。「卒論ゼミ b」の授業アンケート結果の「大変満足」「どちらかといえば満足」を合計するとほぼ100%に近く、本授業に対して多くの方が真剣に取り組んでくださった結果と解釈しました。残念ながら授業アンケートを提出なさらなかった方も一定数いらっしゃるので、授業後の感想を一言伺いたかったことだけが心残りです。本授業で学んだ、段階を追って誠実に物事を準備する心がけを今後も忘れず、社会で求められる人材、信頼される人材として活躍されることを心から祈っています。 |
| 卒論ゼミ b | 児島 薫 | 卒業論文は、一番自分の努力の成果を実感できる学習でしょう。みなさん、勤勉によく休まずがんばって調査研究を続けたいと思います。今後これを自信として何事にもあきらめないで取り組んでください。 |
| 卒論ゼミ b | 齋藤 達也 | 4年間の集大成として卒論をなんとか書き上げることができたかと思います。社会に出ても役に立つ能力ですので、この調子で頑張ってください。 |
| 卒論ゼミ b | 権原 伸博 | 卒業論文の提出ご苦労さまでした。今期の卒論は、AIをいかに活用して、卒業論文を書くのかという問題が大きかったと思います。AIを用いて、資料を調べることは、手早く資料を確認できるので有効ですが、AIを用いて論文を書かせてしまうと、それは剽窃行為となってしまいます。どのような指示をして、このような資料が導かれた、それを自分なりに検証し直して、そのことを論文にしっかりと明記して論文を仕上げるということは、学びの基本的な態度です。ビジネス資料を作成するのは異なりますので、自分の学びの独創性を大事にしていく必要があります。 |
| 卒論ゼミ b | 下山 肇 | アンケート記入なし |

〔2025（後期）美学美術史学科〕授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|----------|-------|--|
| 卒論ゼミ b | 馬淵 美帆 | 就活などで忙しい中だったと思いますが、受講者の皆さんは意欲的に取り組んでくれたと感じています。時間が限られている中で最後まで卒論を執筆、改善する作業を続け、完成できたことは素晴らしいです。 |
| 卒論ゼミ b | 武笠 朗 | 一人も回答しなかったのは大問題である。次回は必ず授業時間内に実施するようにしたい。今年度はゼミ生が少なかったため、卒論の個人指導の回数を増やすことができたが、次年度は大人数となり個人指導の回数を増やすことがむずかしいので、対応を検討したい。中間発表の際の口頭コメントだけでは、言いたいことが通じないので、学生により直接的に指導が届くようにしたいと考えている。 |
| 絵画入門 b | 織田 涼子 | 意欲的に取り組み、デッサンや絵画における基本的な技法と道具の扱い等に理解を深め、計画的に制作できたことは大変良かったと思います。一方、授業の方法については低い評価でした。分かりやすい説明のために、掲示資料を工夫し、今後は質問のしやすい環境に改善します。 |
| 絵画入門 b | 織田 涼子 | 意欲的に取り組み、デッサンや絵画における基本的な技法に理解を深め、意図に応じて材料を扱う等、自身の成長を実感できたことは何よりです。授業の方法は概ね良い評価でしたが、分かりやすい説明のために、掲示資料を改善し、質問のしやすい環境を作りたいと思います。 |
| デザイン入門 b | 下山 肇 | 数量評価では、説明の明確さ、資料のわかりやすさ、成長実感は高水準で、理解度は約85%でした。授業スピードについては個人差が見られます。記述では、「未知を探索する意味を理解した」「過去の経験からではなく一から考える発想」「価値観を更新できた」「計画を立てないことで偶然性を見出せた」「素材の性質に応じて対応することを学んだ」など、創造観の変化が顕著に現れました。これは基礎科目としての目的「デザインを感覚から構造へ」移行させることが達成されつつあることを示します。すでに皆さんは、「創造観の転換」「素材理解の拡張」「計画と偶然の構造認識」という基礎を獲得しています。次段階では、それをより明確に言語化し、再現可能な思考モデルへと整理することが必要となるでしょう。 |
| 絵画実習 b | 織田 涼子 | 全体については高評価で、意欲的に取り組み、自身の成長を実感できたよう何よりです。板書や配布資料、声の聞きやすさは問題ありませんでしたが、制作方法の説明は分かりやすく改善したいと思います。 |
| 絵画実習 c | 織田 涼子 | 授業内容や方法への評価は平均より低いものの、特に低評価の項目はありませんでした。意欲的に取り組み、日本画の技法を理解して、自身の成長を実感できたことは大変良かったと思います。 |
| デザイン実習 b | 下山 肇 | 数量評価では満足度は高いものの、理解度は約77%とやや抑制的で、欠席回数にばらつきが見られました。記述では、「色の作り方の理解が深まった」「主モチーフの安定」「遠景・中景・近景を意識できた」「モチーフ数の調整が勉強になった」「精神面での成長を感じた」など、構成理解と色彩構造の認識が具体的に記されています。数量的な理解度の控えめさは、内容の難度を反映している可能性があります。理解が表層ではなく、構造段階に移行していることが自由記述から確認できます。今後は、色・構成・空間関係を再説明できる力を意識すると良いでしょう。 |
| デザイン実習 c | 下山 肇 | 数量評価では、シラバス一致・説明の明確さ・双方向性・総合満足度はいずれも高水準で、理解度は約83%でした。成長実感も安定して高く、授業設計としては機能していたと判断できます。記述では、以下の内容が繰り返し見られました。「色面がどう分割されているかを考える力がついた」「感覚的ではなく、構造として捉える必要性を感じた」「主モチーフを置くことで画面が安定する」「ポスター構成の理解が進んだ」これらは単なる着色技術の習得ではなく、視覚構造の分析力が育っていることを示しています。一方で「まだ自分の中に落とし込めていない」という記述もあり、理解は進んでいるが定着途上であることも読み取れます。今後は、制作後に「なぜその構成なのか」を言語化する時間を意識することが重要です。 |